

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093100032		
法人名	(株)創生事業団		
事業所名	グループホーム イコロの里	ユニット名	愛
所在地	福岡県春日市平田台1-138-2		
自己評価作成日	平成30年10月30日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成30年11月30日	評価結果確定日	平成31年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

イコロの里は、デイサービスや有料老人ホームと併設され、敷地内には広大な庭園があり、季節に合わせた花を觀賞しながらいつでも気軽に散歩ができる環境になっている。庭園内の畑には様々な野菜が植えられており、入居者様と共に旬の野菜を収穫し日々の食材に使われている。
また、有料老人ホームで行われているサークル活動(陶芸、フラワーアレンジメント等)に参加し、定期的に個々の趣味を楽しんでいる。
さらに、年間を通じて様々な行事(夏祭り、プリの解体ショー等)や食事を開催し、ご家族にも参加していただくことで、入所者様やスタッフとの親睦を深め、信頼関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地内には関連施設や整備された庭園があり、花や野菜の生育を楽しみながら、気軽な外出ができる環境を有している。利用者の方々も日々の水やりや鋤を持って収穫に参加し、自然の恵みを味わう機会がある。介護計画には個別の役割や生活習慣の継続を位置付け、利用者個々の主体的な意欲向上を意識しながら、日常の中での生活リハビリや機能活用に取り組んでいる。運営推進会議の開催を広く案内し複数の家族の参加を得ており、意見や要望の聴取に努め、連携を図りながら、利用者本位の暮らしの継続に向けて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼にてホーム理念を声に出して読み、スタッフ全体で理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を掲げ、目に付きやすい場所への掲示や日々の唱和、事業所案内の中でもひもときながら共有を図っている。各ユニット名は、理念から名付けられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様と一緒に公民館へ回覧板を取りに行ったり、地区内の清掃活動や廃品回収にも積極的に参加している。又、ラジオ体操や夏祭り・文化祭など季節の行事にも参加している。	自治会に加入し、公民館への回覧板(月2回)の受け取りや廃品回収の際には、利用者と共に参加している。また、地域の文化祭への出品や隣接施設との合同行事である夏祭り等にて、地域との交流を図っている。また、小学生との交流を通じて認知症啓発活動にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、認知症に関する勉強会を行い、地域の民生委員やご家族に情報を発信している。また、小学生との交流などを通して、地域の子供達に実際に認知症の方と触れ合ってもらえる機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況報告・行事報告等を行ったり、ホーム内の課題や取り組みを議題に上げ、ご家族・地域の方々、市役所からの意見を頂き、スタッフ全員に周知して改善に役立っている。	2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、入居者、複数の家族、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員等の出席を得ている。運営状況やアクシデント、ヒヤリハット等を報告し、意見を頂いている。また、災害や感染対策、AEDの使用法等について、情報発信を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が主催している介護支援専門員の情報交換会や地域密着型定例会議等に出席をして、実情やケアサービスについての相談などをして協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議には、行政担当者及び地域包括支援センター職員の出席を得ている。また、地域密着型定例会議には、市や社協の出席があり、情報共有を図りながら協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて身体拘束の具体的な行為を学び、身体拘束をしないケアの実践を行っている。玄関の施錠を含め、身体拘束は行っていない。管理者をはじめスタッフ全体で身体拘束になり得る行為がないか話し合いを行っている。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、検討委員会の設置や研修実施について、重要事項説明書に明記している。虐待チェックリストを用い、日常の振り返りを行うとともに、環境整備も含めより良いケアの実践について検討を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて高齢者虐待防止関連法について学び、身体拘束をしないケアの実践を行っている。日々、入居者様の生活状況を共有し虐待が見過ごされないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の研修会を開催し、学ぶ機会を設けている。また、制度に関するパンフレットを玄関に設置し活用できるようにしている。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、年間計画の中で研修を実施するとともに、資料を閲覧可能とし、必要時には活用に向けた支援が行えるよう取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の際は、十分に時間を取り理解及び同意を頂いている。全ての内容を文章、口頭で伝え、しっかり納得の上、不安がないようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の面会時や三ヶ月に一度のサービス担当者会議の場で個別に意見や要望を聞き取り、運営推進会議の際に外部へ表せる機会を設けている。	運営推進会議の開催を広く案内し、複数の家族の出席を得ている。役割づくりへや出来ることを続けて欲しいという家族の要望もあり、介護計画にも位置付けながら支援に努めている。「接遇マナーの理解」をテーマとして、苦情を分析し対応について職員への周知を図っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会での話し合いやスタッフミーティング、個人面談を通じて、意見交換や情報共有を図っている。また、管理者が参加する法人運営会議で検討し、反映に努めている。	毎月ミーティングが開催されており、事前に議題を提示し、意見を出やすくする工夫を行っている。また職員より議題が提示されることもある。議事録より、活発な意見交換が行われていることがうかがえ、設備や業務等の改善に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の能力・実績・勤務態度などを把握し、評価を定期的に行っている。又、無理のない勤務設定をし働きやすい環境を整えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関しては、本人の意欲を最重視している。又、職員についてはそれぞれの能力を活かしそれに合った担当を努めてもらっており、能力を十分に発揮してもらえるように配慮している。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。各種委員会活動や業務を担当することで、個々の能力を発揮する場面がある。産休の取得や復帰に向けた配慮、勤務時間帯の考慮等、働きやすい環境づくりに努めている。ガーデニングや調理等、得意分野を活かせる場面もある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修にて人権教育、啓発活動について学びスタッフ全体で理解を深め、取り組んでいる。	人権教育・啓発活動をテーマとする研修実施や、倫理及び法令遵守、高齢者虐待防止関連法、認知症ケア等の内部研修を実施し、様々な視点から、職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けたり、内部研修の計画を立て、各職員のレベルアップにつながるようにして、又研修報告書にて全員で共有し実践できているか確認・指導を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員の情報交換会や地域密着型定例会議等に参加し、ホームの実情やケアサービスについての相談などをし、サービスの質の向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前にご本人様と面会し、困っていることや要望等を聞き取れるように努めている。また、ご本人様が意思を伝えきれない部分は、ご家族やケアマネージャー・介護スタッフを通じて不安や困難なことを把握し、ご本人様が安心して生活を送れる環境作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に複数回ご家族と面会し、困っていることや不安なことを聞き取れるようにしている。また、フェイスシートの項目(認知症に対する取り組み、要望等)に沿って聞き取りを行い現状の把握を行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前の面会時に聞き取りを行った上で、ご本人様に今必要な支援を行っている。入居当初はご本人様とご家族の言動をしっかり把握し、他のサービス利用も視野に入れながら臨機応変に対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の言葉に耳を傾け、人生の先輩であることを意識しながら一緒に喜び楽しめるような関係作りに努めている。また、料理や洗濯・掃除等を行ったり食卓を共に囲ったりすることで信頼関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に定期的に手紙を送ったり、電話や面会時に直接ホームでの生活の様子を伝えている。また、ご本人様にもご家族の事を伝え、良い関係が続くように努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様ご本人の昔話などに耳を傾けたり、ご家族に話を聞くことにより、ご本人にとって大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。	家族の来訪する機会も多く、ともに歓迎し、ゆっくりと過ごせるよう配慮に努めている。個別外出として、家族と共に外出する企画も計画されている。書信のやり取りをサポートしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がスムーズに会話ができるよう、また孤立しないよう会話の橋渡しや支え合え協力し合えるような支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も元ご家族様が外向いてきて下さったり、元ご家族様から紹介いただいたコンサート等に入居者様と参加したりしながら関係を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回の面談時には思いや希望を聞き取り、フェイスシートや伝達帳を活用してスタッフ全員で情報を共有している。ご本人が理解できる分かりやすい言葉でコミュニケーションを図り、思いや希望、意向の把握に努め、それをケアプランに反映するようにしている。	2名の職員がペアを組み担当することにより、日常の暮らしぶりを細やかな視点で情報収集しながら、生活習慣や日課の継続を意識した支援に努めている。家族からも情報を得ながら、本人本位の検討に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人一人の生活歴の把握の徹底とわからない事はご家族への聞き取りを行い、良い接し方ができるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方については、個人記録を記入している。心身状態については、毎日、バイタルサイン、排尿、排便、食事量、水分量などをチェックし、変化を見逃さないようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたってご本人様の思いを基に、ご家族、スタッフ、計画作成担当者で話し合い、医師の意見書等を参考にしながら介護計画を作成している。また、モニタリングに関しては達成状況をスタッフに記入してもらい見直しにつなげている。	本人、家族の思いや意向を踏まえ、役割づくりや日課の継続等を介護計画の中に位置付けながら、個別性ある介護計画作成に努めている。担当者が毎月のモニタリングにも主体的に関わり、定期的なカンファレンスや評価等を通じて見直しの必要性を検討している。居室に役割や目標を掲示し、主体的な意識の中で実践できるよう取り組んでいる方もおられる。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は個人記録に記入し、スタッフ間で情報を共有している。また、気づきや工夫を伝達帳やヒヤリハットに記入し、スタッフが必ず目を通すようにし、情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方等で対応できない病院付き添いや外出等は柔軟に対応できるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地域の小中学生との交流会を開催したり、併設している施設で行われているボランティアイベント(フラワーアレンジメント等)に参加していただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居面談時にご本人様及びご家族への希望を確認しその方の病状に応じたかかりつけ医を選ぶことにより適切な医療が受けられるように支援している。さらに、その受診状況等をご家族に伝え情報を共有している。	家族との連携を図りながら、かかりつけ医の受診を支援し、通院を外出の機会としてもとらえ、家族と買い物等に立ち寄る場面もある。協力医療機関との連携も図りながら、受診結果については家族や職員との情報共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の日々の健康状態の中で介護職では判断が難しい状態が発生した際は、協力医療機関の看護師に相談している。また、隣接している施設の看護師にも相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際は普段の生活状況や過去の既往歴の情報を医療機関に提供している。また、入院後の状態を、医療機関の相談員やご家族に定期的に確認し情報を共有し、リハビリや食事形態等を退院後も引き継げるよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にホームとして出来ること、出来ないことや、関連施設や医療機関との連携も含めた対応について説明している。	入居契約時に、重度化した場合や終末期のあり方について指針をもとに説明を行い、意向を確認している。状況の変化に伴い、その都度意向を確認し、関係者での方針共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてスタッフは救急救命講習に参加し、心配蘇生法や応急手当の訓練を学んでいる。また、緊急時対応のフローを作成し、常に確認できる場所に掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行われている避難訓練等に入居者様と共に積極的に参加し、実際に災害等が発生した場合、迅速に入居者様が避難できるようにしている。	各種災害に対応するマニュアルを整備し、隣接する関連施設との合同訓練(年2回・昼夜想定)に加え、事業所独自の訓練を想定を変えながら実施している。水消火器を用いた訓練では、入居者の方々も実践に参加したり、備蓄品の充実等にも取り組んでいる。運営推進会議の中でも意見交換が行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への出入りの際に一言声かけを行うなど、プライバシーを尊重している。日常の会話では「人生の先輩」ということを前提に、その方の生活歴を把握したうえで声かけの工夫を行っている。	接遇マナーの理解やプライバシー保護、倫理及び法令遵守等の内部研修を実施し、職員の意識を高める取り組みがある。排泄ケアの際のさりげない対応や利用者の前では記録を書かない、その都度の意向確認を大切にすることを心がけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様のやりたい事を第一に、気持ちを尊重している。ご本人様の思いや希望を引き出し、自己決定ができるよう働きかけている。自分の思いを正確に伝えるのが困難な方については、スタッフが表情や行動から汲み取っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の好み、興味を考慮しながら見守りや声かけにより共に行動し、入居者様の思いを第一に支援している。散歩に行きたいなど希望があれば外出に付き添っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の起床時には身だしなみを整え、ご本人様の希望されるように整容している。イベントや外出時には、ご本人様とスタッフが一緒に洋服を選べるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓のテーブル拭きや料理のつぎ分け、大根おろし、メニュー書きなど、出来ることはやって頂いている。食事内容もイベントや季節に合わせて趣向を変えたり、お弁当を取るなど常にお食事を楽しんでいただけるよう努めている。	広い敷地内で野菜を育て、利用者の方々も鍬を手を持ち、収穫の喜びを味わう機会がある。管理栄養士によるメニューをもとに、職員が交代で調理を行い、利用者個々の希望や力を発揮できるよう支援している。利用者との関わりを充実させるべく、あえて調理をせず弁当の日を設けている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立をもとに、入居者様の好みや状態に合わせた食事形態(ミキサー食や刻み食)を工夫している。また、日々の食事だけでは栄養が不足しがちな方については、主治医に相談し栄養補助食品を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケアを基本とし、磨き残しがある場合はスタッフが介助している。また、歯科衛生士とも相談しながら清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの状況に応じてトイレの間隔は違うので、排泄表を活用しながらトイレ誘導をしている。オムツやパットの使用はスタッフミーティング等で話し合い、その入居者様の状態に合わせて使用している。	排泄表を用い、個別の状況把握に努めている。カンファレンス等にて検討を行い、パターンやサインに応じた支援に努めている。トイレでの排泄を基本とし、日常の中での生活リハビリを重要視しながら、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルト・牛乳・ヤクルトを提供し、なるべく自然に排便が出せるようにしている。便秘気味の方にはトイレ誘導時、スタッフによる腹部マッサージを行い排便が出やすいよう工夫している。主治医に相談し、指示のもと下剤などで調整している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に応じて入浴ができるよう、曜日を決めずに毎日入れるようにしている。また、入浴拒否がある方には無理強いせずにご本人様に合わせた入浴の声かけをしている。工夫として、入浴剤で気持ちよく入浴できるようにしている。	週に2、3回とする基本的な入浴スケジュールは設定しているが、毎日入浴準備を行い、その日の希望や体調、状況等に応じて、柔軟な対応に努めている。実際に毎日入浴されている方もおり、浴室に音楽を流したり、入浴剤を用いる等、リラックスして入浴を楽しむことができるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態や日中の状態に合わせ、傾眠が強い場合などは居室にて臥床していただく。夜間、しっかり眠れるように日中の活動量を増やしたり、寝付けない時は温かい飲み物を提供したりしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが薬を把握できるように処方箋や医療記録を確認している。一人ひとりの状態に合わせて医師・薬剤師に相談し、錠剤を粉状に変えてもらう。飲み込みが悪い方は服薬ゼリーと一緒に使用している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の生活の中で塗り絵やカラオケ等の興味があるものを提供したり、生活歴を活かし花の水やり、ブラインド開閉、メニュー書き、家事手伝い、散歩やフラワーアレンジメントなどの個々に応じた支援を行っている。嗜好品に関しては、希望時にはコーヒーやココアの提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週4回スタッフと一緒に日用品(食材など)の買い物に行っている。また、入居者様の希望に合わせて敷地内の庭園を散歩したり、時期に合わせてドライブにでかけている。	花の水やりや散歩、ゴミだし等、個別の役割や日課を大切にもらえ、日常の中で戸外に出る機会がある。受診を外出の機会としてもらえ、家族との連携も図りながら外食等に出かけている。敷地内には広大な庭園があり、外出しやすい環境を有している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時に金銭管理についてご家族様に説明し、入居者様がお金を所持したり、使いたい希望がある場合はご家族に相談して対応できるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が電話や手紙を出したいと言われたら可能な限り、すぐに対応している。手紙のやり取りは暑中見舞いや年賀状を中心に行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気に合わせて玄関先には花壇を作り、季節の花を植えたり、強い日差し対策としてベランダに日よけを設置している。また季節に合わせた飾り付けをしたり、花を飾ったりして居心地良く暮らせる工夫をしている。	玄関先や広い敷地内には花壇や畑、プランターがあり、季節の変化を感じながら植物の生育や収穫を楽しむことが出来る。リビングから離れた場所にソファを設置し、個人の時間を過ごしたり、歩行訓練の目標として設定する等の工夫を行っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥の窓辺に椅子を設置し、そこで静かに過ごされる方や和室に設置している共同ソファで入居者様同士で会話できる空間作りをしている。また同空間を利用して昼間には音楽を流している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の部屋であると分かりやすいように入口に本人の写真や好きな小物を置くようにしている。本人が以前から使っていたタンスや馴染みの家具を自由に持ち込んでもらい、居心地の良い空間作りをしている。	各居室入口には、馴染みの品や家族の写真が飾られている。掃除や仏壇へのお供えを日課とされている方、また役割や目標を掲示されている方もおり、生活の質や意欲向上に結び付けるよう取り組んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりやすいように張り紙をして入居者様がお一人で行けるようにしている。また、廊下や玄関には手すりや椅子を置き安全で自立した生活を送れるように配慮している。		